

第5回花巻市行政評価委員会会議録

1 開催日時

平成23年10月25日(火) 午前9時30分～午後12時

2 開催場所

花巻市南万丁目970番地5

花巻保健センター 2階 集団指導室

3 出席者

(1) 委員 15名

影山委員長、倉原副委員長、木村副委員長、宮澤委員、高橋(則)委員、佐藤委員、伊藤(純)委員、伊藤(成)委員、久保田委員、永井委員、福盛田委員、高橋(勝)委員、長澤委員、菊池委員、高橋(セ)委員

(2) 市・事務局

4 議題

(1) 評価結果の決定について

(2) 行政評価の改善に関する提言について

(3) 委員会報告書の作成について

5 会議の概要

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 【部会】部会評価の決定について

(4) 議事

①評価結果の決定について

■しごと部会

◆施策：2次・3次産業との融合による強い1次産業の育成

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 適正

5 施策の現状と課題 — 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：農業振興対策事業

2(1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3⑧ 当該年度の振り返り(中間評価) — 適正

※4(1)(2)の効率性について、内部評価と異なる評価となった。

○事務事業：6次産業化推進事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。

◆施策：空陸交通ネットワーク高度利用による企業誘致の推進

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 適正

5 施策の現状と課題 — 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：企業誘致推進事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※4 (1) (2) の効率性について、内部評価と異なる評価となった。

○事務事業：企業立地環境整備事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。

◆施策：まちぐるみ観光サービスの産業化

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 適正

5 施策の現状と課題 — 適正

※4 ②について内部評価と異なる評価となった。

○事務事業：外国人観光客誘致促進事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※4 (1) (2) の効率性について、内部評価と異なる評価となった。

○事務事業：まちぐるみ観光推進事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。

■くらし部会

◆施策：良好な市街地の形成

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 適正

5 施策の現状と課題 — 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：都市施設機能改善事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

※内部評価との相違はない。花巻駅駐車場の整備によって駐車料金が安くなったが、市民への周知が足りないと感じた。

○事務事業：景観づくり推進事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3② 成果の向上余地（有効性評価） － 向上余地がある

景観計画策定の事業年度を前倒しして進めてほしい。東北本線沿いの市で景観計画を策定していないのは花巻市のみとの県指摘あり。

3③ 類似事業との統廃合・連携の可能性（有効性評価） － 他に手段がある

様々な事業と連携できるのではないかと。先人や歴史文化等も考慮すべきである。

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

◆施策：快適で便利な道路網と公共交通体系の構築

1 施策の目的と指標、指標等の推移 － 適正

5 施策の現状と課題 － 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：公共交通確保対策事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

※内部評価との相違はない。バス路線の確保は苦勞しているのが伺えた。アンケート調査の内容が重要であるが、市民の意見を集約するのは難しいと感じた。

○事務事業：空港利用促進事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

※内部評価との相違はない。JR花巻空港駅の名称に疑問を感じる。空港駅であれば徒歩で空港に行けるとの誤解があるのでは。利便性を高めるためにシャトルバスを用意すべき。また、JR新花巻駅の名称も無味乾燥と感じる。空港駅やイーハトーブ駅としてはどうかとの意見があった。

◆施策：みんなで進める健康づくり

1 施策の目的と指標、指標等の推移 － 適正

5 施策の現状と課題 － 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：健康づくり啓発事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

※内部評価との相違はない。限られた予算のなかで工夫して事業を実施していると感じた。また、子どもにはゆっくりご飯を食べる時間が必要ではないかとの意見があった。

○事務事業：母子保健事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 適正

※内部評価との相違はない。産婦人科の医師が少なく、医師確保に努めてほしいとの意見があった。

<総評>初めての評価であり、全体を通して限られた時間のなか、駆け足で評価した。今後はもっと努力したい。

■人づくり部会

◆施策：安心して育てることができる子育て支援の充実

1 施策の目的と指標、指標等の推移 － 不適

そもそも判断する材料が少なく、どこまで突っ込んだ議論をしたらのいいか分からなかった。限られた資料のなかで不適と評価した。

4② 平成27年度の目標達成見込み － 新規事業の企画が必要

5 施策の現状と課題 － 適正

○事務事業：児童育成支援事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） － 不適（与えられた資料では評価できない。）

4(2) 今後の事業の方向性 － 評価せず（評価結果がすべて適切であるにもかかわらず目標未達成。）

※目標が本来あってそれに対する事業であるべきであるが、逆に事業が先で指標が後付けになっており無理があると感じる。

◆施策：活力と特色ある学校教育の推進

1 施策の目的と指標、指標等の推移 － 適正

4② 平成27年度の目標達成見込み － 新規事業が必要。

5 施策の現状と課題 － 適正

※目標値の取扱いが難しい。そもそも目標値の根拠が不明である（この事業に限らず）。おそらく結果だけ何らかの議論・理由があったと思うが、プロセスが見えてこないなかで目標値を設定しても評価できない。

○事務事業：学力向上推進事業

2(1) 事務事業の目的と指標 － 適正

3③ 類似事業との統廃合・連携の可能性（有効性評価） — 他に手段がない

おそらく他に手段があると想像できるが、類似事業がないと記載されており、類似事業がないのであれば手段がないと評価した。むしろシートが不完全であるため、シートという限られた条件のなかで判断した。他の情報があれば、おそらく他に手段があると判断するだろう。

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※限られた情報、時間のなかで評価したものであり、強い自信を持った評価ではない。

◆施策：創造性豊かな芸術文化の振興

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 適正

5 施策の現状と課題 — 適正

※内部評価との相違はない。芸術文化、福祉分野を数値化するのは難しい。評価の難しさとともに、行政内部の今後の在り方も難しくしているように感じる。

○事務事業：芸術文化推進事業

2(1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。3⑥受益機会・費用負担の適正化余地（公平性評価）に合併問題があった。合併によって地域ごとの公平性のバランスを欠いているのではないかとの意見があった。

○事務事業：民俗芸能伝承支援事業

2(1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。

◆施策：豊かな心を育む生涯学習の推進

1 施策の目的と指標、指標等の推移 — 不適

豊かさを評価するうえで1つの指標だけで測れるものではなく、多面的に測定しなければならないのではないか。

5 施策の現状と課題 — 適正

※内部評価との相違はない。

○事務事業：生涯学習活動支援事業

2(1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

4(1) 評価結果 — 見直し余地あり

4(2) 今後の事業の方向性 — 効率性改善

○事務事業：国際交流推進事業

2 (1) 事務事業の目的と指標 — 適正

3 ⑧ 当該年度の振り返り（中間評価） — 適正

※内部評価との相違はない。そもそも国際感覚とは何なのか。合併問題あり。
地域の特性を活かした事業の展開も大事ではないか。

<総評> 個々の事業を評価する以前の問題に、与えられた材料で判断するには極めて限界があり、外部評価するには無理がある。評価のシステム、シートの形態に矛盾がはさまれ、一方でプラス、一方でマイナスと必然的になってしまう評価の仕組み自体に一貫性がない。さらに、他の事業に振り替えたり、統合していくということを模索したいという主旨で評価していると思っていたが、他の関連する施策・事業がまったく見えなく、議論ができなかった。また、事業に対する評価の材料が少なく有効な議論ができなかった。

委員の皆さんは貴重な時間を使って熱心に議論されていたと思うが、時間と労力を十分評価に反映できるような、評価のための枠組みがなされていないのではないかと感じた。

②行政評価の改善に関する提言について

・時間内に全体を掌握し、施策を関連付けた形で評価したかったが困難であった。評価の項目を選ぶ側にも責任があるのかもしれないが、よくばらないで時間をかけてじっくり体系づけてみたかったし、全体の概要もボリュームが大きく理解しづらかった。タイトなスケジュールのなかでしっかり勉強しないと理解できない。今後は選ぶところに時間をかけるべきなのか、体系付けを整理していただくよう改善願いたい。

・欠席した委員より事前に提出されたメールを紹介
(以下原文のとおり。)

施策評価検証シートでは、1 施策の目的と指標、指標等の推移が最重要項目であり、そのことで評価するしくみになっているが、全体を通じて感じたことは、1 を最重要項目としてとらえ、そこを決めてから各種事業へ展開している部署がなかったのでは？と感じた。

そのため、目的を網羅した指標への工夫が無いと、検証シートに沿った評価が実施できなかったというのが、全体の感想である。

是非とも、目的を網羅した観測点その後それを達成するための事業という流れにしない限り、現在使っているフォーマットでは評価できないと感じた。

・今回用意されている施策マネジメントシートを見ていると行ったり来たりしたり、

矛盾している点がたくさんある。最終的には数値となると思うが、数値は結果であり、取り組んできたストーリー、どこがうまくいって、どういった問題があったというのが見えてこない。また、マネジメントシートと検証シートが一致していないと感じた。職員は評価を何度もやっていると思うが、工夫して各施策にあったシートを作成すれば、きちんとした議論ができると思うので改善願いたい。

もう一つは平成 19 年度に総合計画を策定し、平成 27 年度を目指して進行管理していると思うが、総合計画を策定してから数年たっており、本当に今の時代にあっているのか分からない。我々は一部分のみを評価しているが、これが本当に課題なのか分からない。実態と合わせて評価できればと思う。

また、今回は公募から数カ月で 5 回の委員会を実施したが、このような企画は最低でも 3 カ月以上前にスケジュールがわかるようセッティングして欲しい。

- ・内部評価は以前からやっているが、それがどういう経緯をたどって、どういう改善がなされたのか説明が欲しかった。

説明した事業担当者から、大震災によって目標値が曖昧になっているという話があったり、また、経済社会状況が変化しているなかで、平成 19 年度に策定した目標値によって評価を行っていることが正しいのかと感じる。この辺で中間評価を行って、後期の行政評価を進めた方が時代にあった評価になるのではないかと思う。

成果の目標値について、まちづくり市民アンケートを基に評価がなされているが、アンケート自体がはたしてそれぞれの施策・事業に合致しているのかという意見が部会内であった。まちづくり市民アンケートも指標の一つとしてはいいと思うが、もう 1 つ別の指標を設けて、より客観性を高めた方が良いと思う。

また、中間評価の位置付けをどのように考えているのか。1 行で終わっているケースもある。今年度どのような取り組みをして、後半に向けてどう改善していくのかという評価であれば良いが、あまり重要視されていないと感じた。チェックしてアクション（改善）に持っていくところが弱いと感じた。

平成 22 年度の評価をして活かされるのが平成 24 年度になり、1 年間のタイムロスがある。今回議論したことが、平成 24 年度の施策に活かされるよう時間的な配慮が必要ではないか。一昨年の評価を今年に活かすのは時間的にかかり過ぎていると思う。次年度にどのように反映されていくかがより大切であり、タイムロスがないような形の委員会の持ち方が必要であると思う。

人件費、事業費の削減に対して、ほとんど余地なしと評価しているのが多い。改善を進めていくのであれば、効率性の見直し等の評価結果があっても良いと思うが、それもないのが多い。事業の改善により市民サービスの向上につなげていくのであれば、内部評価も我々の評価も甘いのかなと思う。改善に向けた評価が必要ではないかを感じる。

- ・マネジメントシートが統一されていることは良いが、事業によっては統一されたフォーマットだけでは不十分ではないか。

我々が評価するうえで、判断する材料が少なすぎる、時間が足りなかったというのが、ほぼ共通した意見である。

共通のフォーマットの場合、数値目標が重要であるが、いろいろな活動指標をすべて数値化できるのかという疑問がある。例えば、観光振興は人的つながりが重要であり、数量化できないものもある。すべてを数値化すればいいのではなく、数値化できないものは数値化できないものとして、評価の対象とできるような評価シートの工夫が必要ではないか。シートを統一することで抜けてしまうこともでてくるので、そこを配慮したマネジメントシートの工夫が必要である。

委員会の運営に関しては、委員会の提案を予算に反映できるような時期に実施すべきである。委員会としても予算に反映できる意見を提案できるようになればいいと思う。

優先順位を決めて、事業によっては人件費、事業費を増やしてでも実施すべきという意見もあるので、予算を削減しろということだけに委員会を利用するだけでなく、予算にメリハリをつける提言をすることも委員会の役割として可能性があると思う。

③委員会報告書の作成について

委員会報告書の作成について事務局から提案があり、原案どおり了承

(5) 閉会

6 傍聴人数

1人

7 問い合わせ先

花巻市政策推進部企画調整課

電話番号：0198-24-2111（内線212）